

# 平成19年度 三番瀬鳥類個体数経年調査 中間報告

NPO法人野鳥千葉

## 調査方法

- ・調査方法は、千葉県が過去に実施した鳥類生息状況調査に準ずる。
- ・調査地点は、平成14年度の「鳥類補完調査」と同じく、舞浜、千鳥、日の出、塩浜、行徳鳥獣保護区、新浜鴨場、押切、江戸川放水路、江戸川放水路河口、船橋海浜公園、谷津干潟、茜浜、豊砂、幕張の浜の、14か所である。
- ・調査は、4月後半から3月後半まで、各月2回、合計、23回行う。

NPO法人野鳥千葉

2

平成19年度三番瀬鳥類個体数経年調査 調査地点



3

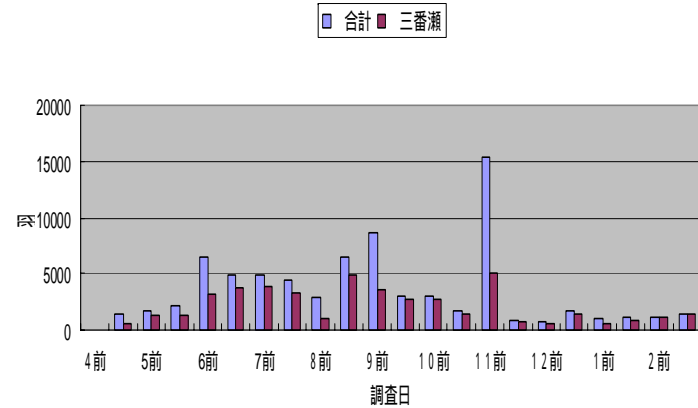
## 中間報告の内容

- ・現時点でまとまっている、2月後半までの調査結果を報告する。
- ・報告内容は、三番瀬海域に生息する鳥類のうち、主要な種を選び、経年生息数を示し、過去のデータと比較する。
- ・選んだ種は、カワウ、スズガモ、オオバン、ミヤコドリ、ダイゼン、ハマシギ、コアシサシの7種である。
- ・生息数は、三番瀬海域（日の出、塩浜、船橋海浜公園の3調査地点）の合計数と、全14調査地点の総数とを示す。

NPO法人野鳥千葉

4

## カワウの生息状況



NPO法人野鳥千葉

5

## 過去の調査との比較等

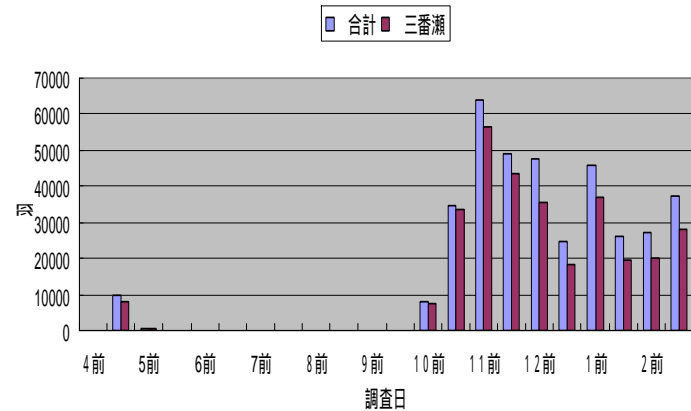
- カワウは、平成14年度には、行徳保護区の最大数が4884羽であり、今回は行徳の最大数が1488羽と少ない。しかし、調査域全体での合計最大数は、平成14年度には1万8000羽弱であり、今回の最大数は1万5429羽であった。調査域全体での個体数に大きな変動はないものと思われる。



NPO法人野鳥千葉

6

## スズガモの生息状況



NPO法人野鳥千葉

7

## 過去の調査との比較等

- スズガモは、平成14年度には、調査全域の合計最大数が10万8571羽、三番瀬での最大数は5万9269羽であったが、今回の合計最大数は6万4129羽であり、三番瀬の最大数は5万6546羽と、減少傾向にあると推測される。

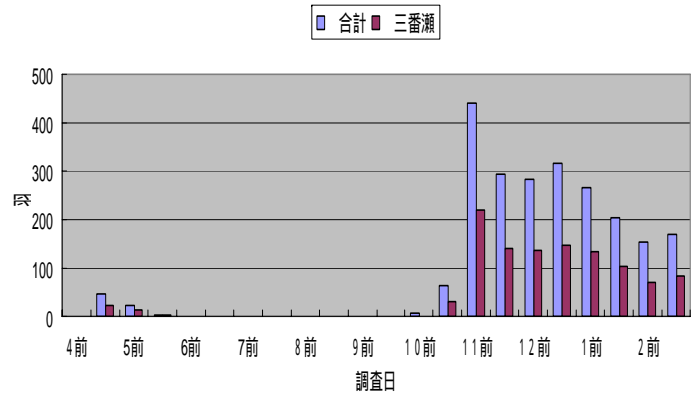
その原因は、例年の青潮の被害とともに、昨年の台風9号の際、江戸川放水路の放水があった結果、湾奥部の底生生物に甚大な被害が出たことなどが要因として考えられる。今冬、スズガモは、富津岬を越えた東京外湾で採餌する群れも多数確認されている。



NPO法人野鳥千葉

8

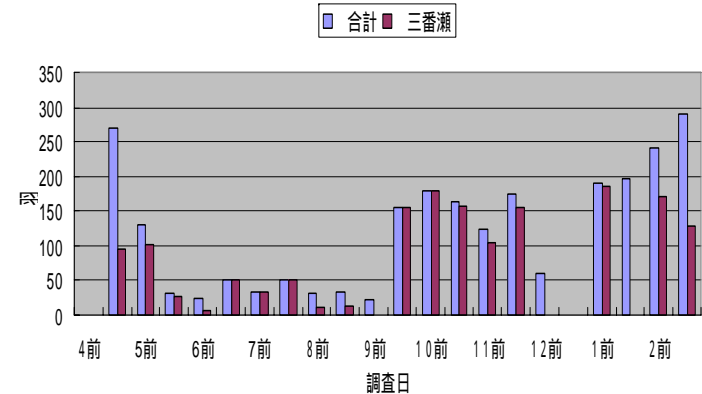
## オオバンの生息状況



NPO法人野鳥千葉

9

## ミヤコドリの生息状況



NPO法人野鳥千葉

10

## 過去の調査との比較等

- ・ **オオバン**は、平成14年度には、船橋海浜公園での観察記録がなかったが、今回は、調査域合計の最大値が440羽、三番瀬の最大数が220羽となっている。近年、東京湾岸で個体数を著しく増加させている種である。
- ・ **ミヤコドリ**は、平成14年度には、船橋海浜公園で60羽であったが、今回は調査域合計の最大数が190羽になっている。

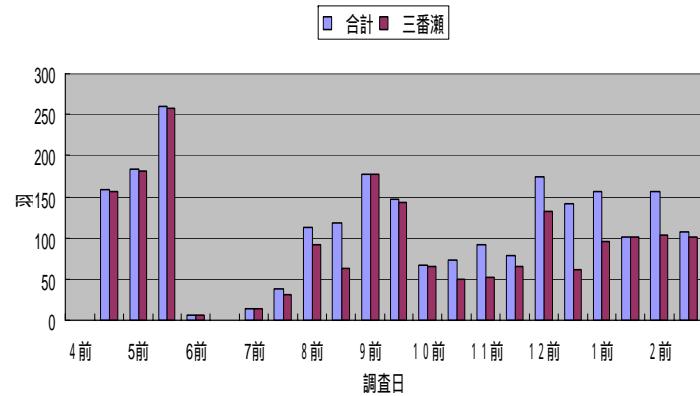


NPO法人野鳥千葉

11

12

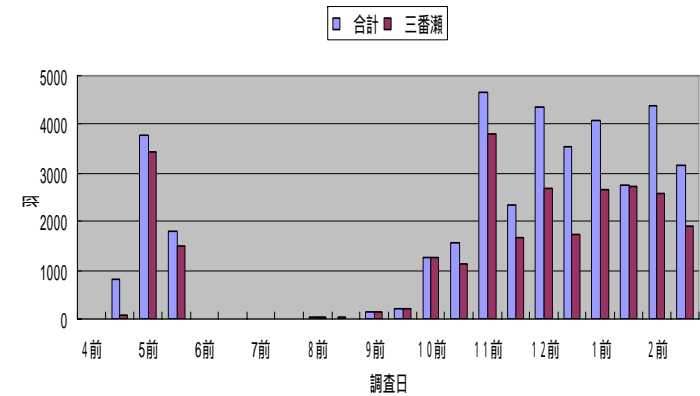
## ダイゼンの生息状況



NPO法人野鳥千葉

13

## ハマシギの生息状況



NPO法人野鳥千葉

14

## 過去の調査との比較等

- ・ダイゼンは、平成14年度には、船橋海浜公園の最大数が149羽、今回の最大数は165羽で、個体数に大きな変動はないものと思われる。
- ・ハマシギは、平成14年度には、船橋海浜公園の最大数が2680羽、今回の最大数は3769羽である。
- ・しかし、シギ・チドリ類は、春秋の渡りの最盛期の大潮の日に、数千人の人が漁業組合管理水域に入り込むことで攪乱を受け、採餌・休息ができない状況にある。

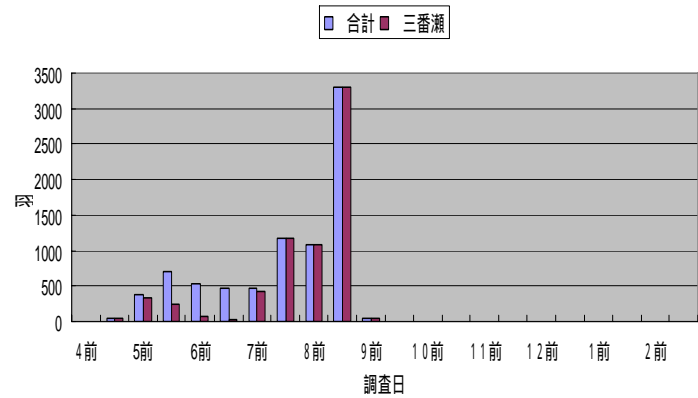


NPO法人野鳥千葉

15

16

## コアシサシの生息状況



NPO法人野鳥千葉

17

## 過去の調査との比較等

- コアシサシは、平成14年度には、船橋海浜公園で最大数が3758羽であったが、今回の最大数は3300羽であり、個体数に大きな変化はないと思われる。



密漁者がコアシサシを追い払う

NPO法人野鳥千葉

18